令和５年度（2023 年度）建設常任委員会管内視察（梅雨前線豪雨関係）の概要

１　視察日　　令和５年（2023 年）８月１６日(水)

２　視察者　　建設常任委員会（８名）
松村秀逸（委員長）、荒川知章（副委員長）、城下広作、
坂田孝志、増永慎一郎、河津修司、堤泰之、星野愛斗

３　視察の概要

（１）県道 445 号金内橋落橋現場（山都町）

梅雨前線豪雨による御船川の増水により、令和５年７月３日に国道445号に架かる山都町の金内橋が落橋した。

国道445号は、通勤・通学をはじめ、地域生活に欠かせない拠点を結ぶ重要な路線である。また、「通潤橋」が本年秋ごろに国宝指定されると、本路線の重要度は益々高まることから、早期の交通開放に向け、仮橋を含む仮設道路の建設が進められている。

今回の視察では、金内橋の早期の交通開放に向けた仮橋を含む仮設道路の建設状況について説明を受けた。

地域振興局から、新しく下流側に設置する仮の応急復旧橋は、真ん中に橋脚を設置しないで、両側に橋台を造る予定で、錦町の球磨大橋と同じように、国土交通省のほうから橋桁を借りる形で今準備を進めている、仮橋が架かった後に、上部橋を撤去し、詳細を調査した上で、再度災害査定を受ける予定との説明があった。

（２）下名連石地区（五老滝川）（山都町）

五老滝川は、山都町下名連石を南下し、山都町市街地を流下後「通潤橋」を経て笹原川に合流する、流路延長8.3kmの緑川水系の支川である。

令和５年７月３日の豪雨では、上流域の下名連石地区で護岸崩壊等の被災が集中し、被災箇所延長の合計が約3.0kmと、上益城管内で最も甚大な被害が発生した河川である。

今回の視察では、被災の状況について説明を受けた。

地域振興局から、五郎滝川だけでなく、東御所川、大矢川でも多数災害が発生しているとの説明があった。

また、地元の県議会議員から、下名連石地区のようなところが山都町にはたくさんある、今日特別に見てもらうのであれば、ニュースにならないようなところを見てもらいたいと思って視察先に入れてもらったとの話があった。

（３）西原村灰床地区地すべり現場（西原村）

令和５年７月３日の大雨により西原村灰床地区で地すべりが発生し、村道秋田灰床線の路面が崩落した。当箇所は県が管理する地すべり防止区域内であることから、村道の災害復旧を県が全面的に技術支援することとし、現在、地すべり規模を確定するための地質調査が実施されている。

今回の視察では、地質調査等の状況について説明を受けた。

地域振興局から、地下水や地すべりの変動等を台風時期が終了する10月末まで観測を行い、地すべりの深さを確定し、対策工法を検討する、また、国交省との協議を経て、年度内に災害査定を受け、事業採択を目指していくとの説明があった。

（４）県道熊本高森線崩落現場（益城町）

梅雨前線豪雨による木山川の増水により、令和５年７月３日に、益城町田原の木山川沿いにある県道熊本高森線の路面が崩落した。近隣には住家があり、増破による被害を防止する必要があったことから、緊急的に大型土のうを設置するなど、民地を保護する工事が実施された。

被災箇所は通学路になっていること及び迂回路が狭く地域住民の生活に与える影響が大きいことから、速やかに交通開放（片側交互通行）するため、応急工事の準備が進められている。

今回の視察では、崩落現場の応急工事の準備状況について説明を受けた。

地域振興局から、今仮応急を実施しているが、全面通行止めとし、大型土のうを積んで保護している状況で、８月23日入札の予定で応急工事の準備を進めているとの説明があった。